

2020年8月吉日

PRESS RELEASE

 川崎市岡本太郎美術館



クルト・セリグマンと岡本太郎
— Art is Magic

SELIGMANN
KURT

2020.

10.24[土]

2021.

1.24[日]

TARO
OKAMOTO

開館時間 | 9:30~17:00 (入館は16:30まで)

休館日 | 月曜日(11月23日、1月11日を除く)、11月4日・24日、12月29日・30日・31日、1月1日・2日・3日・12日

観覧料 | 一般 1,000(800)円、高・大学生、65歳以上 800(640)円 ※()内は20名以上の団体料金 ※中学生以下は無料


主催 | 川崎市岡本太郎美術館、読売新聞社、美術館連絡協議会

協賛 | ライオン、大日本印刷、損保ジャパン、日本テレビ放送網

後援 | 米国大使館

協力 | The Seligmann Center of the Orange County Citizens Foundation, Chester, New York.

Weinstein Gallery、堀内カラー

助成 |  芸術文化振興基金

©The Seligmann Center of the Orange County Citizens Foundation, Chester, New York.

川崎市岡本太郎美術館

Taro Okamoto Museum of Art, Kawasaki

〒214-0032 川崎市多摩区栢形7-1-5 生田緑地内 TEL 044-900-9898

<https://www.taromuseum.jp>

展覧会概要

岡本太郎（1911-96）はパリに滞在中の1933年、前衛芸術家の団体アプストラクシオン・クレアシオン協会に参加し、多くの芸術家たちと親しく交わり、とりわけクルト・セリグマン（1900-62）とは同協会員の中でも最も深く交流を持ちました。

1934年頃のセリグマンの作品と岡本の《空間》《リボン》のシリーズには、暗色の背景に抽象的ながら量感を持ったモチーフを描き出すなど、共通する部分が多く見られます。特に両者ともに「リボン」をモチーフとした作品を生涯を通じ制作していることから、岡本はセリグマンの影響を濃厚に受けたといえます。



クルト・セリグマン 1936-37年頃 パリのアトリエにて

セリグマンによる1930年代前半の言説にも、岡本が後に提唱することとなる「対極主義」と大きな関係があると考えられます。


1935年には、セリグマン、岡本、ヴェリアミの3人によりパリで展覧会が開催され、それをきっかけに「ネオ・コンクレティスム」（新具象主義）が提唱されました。

また1936年、セリグマンがアルレット夫人と共に東京を訪問した際、パリの岡本太郎は、父・一平に歓待するよう依頼し、一平の手配によってセリグマンは銀座・三越百貨店にて個展を開催しました。それを機に「ネオ・コンクレティスム」は日本で脚光を浴び広く知られることとなります。

1939年、ユダヤ系であるセリグマンはドイツ・ナチスの侵攻を察知し、活動の拠点をアメリカ・ニューヨークへ移します。1940年代以降、セリグマンはパリ時代の芸術家仲間をニューヨークに次々に招いて紹介し、ニューヨーク派シュルレアリストの重鎮として活躍しました。彼の尽力により、岡本太郎も同地で1953年にニューヨークで個展を開催しています。その後、1951年開催の読売アンデパンダン展（第3回日本アンデパンダン展）におけるマーク・ロスコやジャクソン・ポロックなど27名のアメリカ人芸術家の出品、また1956年開催の「世界・今日の美術展」8名16点の出品も岡本とセリグマンの友情により実現されたものです。

本展は、岡本太郎の盟友であるクルト・セリグマンの作品を岡本の作品とともに紹介し、岡本芸術の形成過程を探ると共に、両者の友情によって第二次世界大戦後の日本の美術界にもたらされた影響の意義について検証する展覧会です。

開催概要

- 展覧会名 クルト・セリグマンと岡本太郎
会 期 2020年10月24日(土)～2021年1月24日(日)
開館時間 9:30～17:00(入館は16:30まで)
休 館 日 月曜日(11月23日、1月11日を除く)、11月4日(水)、11月24日(火)
12月29日(火)～1月3日(日)、1月12日(火)
観 覧 料 一般1,000(800)円、高・大学生・65歳以上800(640)円、中学生以下は無料
※()内は20名以上の団体料金
主 催 川崎市岡本太郎美術館、読売新聞社、美術館連絡協議会
協 賛 ライオン、大日本印刷、損保ジャパン、日本テレビ放送網
後 援 米国大使館
協 力 The Seligmann Center of the Orange Country Foundation, Inc.,
Weinstein Gallery, 堀内カラー、日本通運
助 成  芸術文化振興基金



クルト・セリグマン《メムノンと蝶》1942年
油彩・キャンバス 岡崎市美術博物館蔵



岡本太郎《傷ましき腕》1936年(1949年再制作)
油彩・キャンバス 当館蔵

お問い合わせ

川崎市岡本太郎美術館 展覧会担当：佐々木、篠原 広報担当：森近 (pr@taromuseum.jp)
〒214-0032 神奈川県川崎市多摩区柞形7-1-5 生田緑地内
TEL：044-900-9898 / FAX：044-900-9966

みどころ

- セリグマンと岡本太郎の絵画・版画作品、戦後日本の作家作品、プライベート映像、資料など約130点を紹介。
- 岡本太郎に最も影響を与えた芸術家として知られるクルト・セリグマンと岡本との交流を紹介。
- パリでのセリグマンとの出会いから岡本太郎が自らの創造を方向付けていく過程を、様々な作品・資料によりひもとく解説。
- 二人の作品の共通点と、その根底に共有する「ネオ・コンクレティスム」(新具象主義)の紹介。
- セリグマンと岡本太郎、それぞれの「リボン」の捉え方と表現を比較。

※企画展の写真・動画撮影不可

展示構成

- 第1章 クルト・セリグマンと岡本太郎
- 第2章 アプストラクシオン・クレアシオン協会
- 第3章 ネオ・コンクレティスムと国際シュレアリスト・パリ展
- 第4章 読売新聞社主催「第3回日本アンデパンダン展」(1951年)と朝日新聞主催「世界・今日の美術展」(1956年)
- 第5章 ニューヨーク・ヒューゴ画廊の「岡本太郎展」(1953年)
- 第6章 芸術は呪術であるークルト・セリグマンへのオマージュ

開催概要主な出品作品(予定)

- クルト・セリグマン 油彩…《メムノンと蝶》
銅版画…《紋章の放浪》シリーズ、《水たまり》他 約30点
- 岡本太郎 油彩…《空間》《傷ましき腕》《コントロールポワン》《夜》他
彫刻…《顔》《愛》《五大陸》《太陽の塔》他 約30点
- アプストラクシオン・クレアシオン協会関連作家、他の作品、約10点
- イエール大学図書館所蔵の岡本=セリグマン往復書簡等(複写)、約60点

※新型コロナウイルス感染拡大の影響により、クルト・セリグマンの国外所蔵作品は原寸大パネルの展示に変更となりました。

関連イベント

※開催記念連続講義(予定)

◆第1回：「パリ時代の岡本太郎～クルト・セリグマンと岡本太郎」

日時：11月8日(日) 14:00～15:30

◆第2回：「パリ時代の岡本太郎～《傷ましき腕》を中心に」

日時：11月22日(日) 14:00～15:30

◆第3回：「戦後のセリグマンと岡本～1951年と1956年の展覧会」

日時：12月6日(日) 14:00～15:30

◆第4回：「『芸術は呪術である』～クルト・セリグマンと岡本太郎」

日時：12月20日(日) 14:00～15:30

◆第5回：「太陽の塔の研究～ミルチャ・エリアーデの影響」

日時：2021年1月24日(日) 14:00～15:30

講師：佐々木秀憲（川崎市岡本太郎美術館学芸員）

定員：各40名（当日先着順）

会場：川崎市岡本太郎美術館 ガイダンスホール

料金：無料、事前予約不要

※新型コロナウイルス感染拡大対策のため、イベントの開催内容が変更となる場合がございます。

詳細は当館ホームページで随時お知らせいたします。

川崎市岡本太郎美術館ホームページ <http://www.taromuseum.jp>



クルト・セリグマンと岡本太郎

1



2



3



4



画像キャプション

画像のご使用の際には、必ず下記キャプション・クレジットをご明記くださいますようお願い致します。

- 1 クルト・セリグマン《旅人》1933-34年（版画集《紋章の放浪》より）エッチング
川崎市岡本太郎美術館蔵

Artwork reproductions courtesy of The Seligmann Center of the Orange County Citizens Foundation, Chester, New York.

- 2 岡本太郎《空間》1934年（1954年再制作）油彩・キャンバス 川崎市岡本太郎美術館蔵
3 下郷羊雄《指の上のローソク》1936年 油彩展・キャンバス 名古屋市美術館蔵
4 芥川沙織《顔》1954年 油彩・キャンバス 川崎市岡本太郎美術館蔵